

2016年11月11日

一般社団法人 日本パン工業会

会長理事 飯島延浩殿

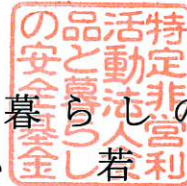
NPO法人食品と暮らしの安全基金

代表 小 若 順 一

〒338-0003埼玉県さいたま市中央区本町東2-14-18

Tel. 048-851-1212

FAX. 048-851-1214



## ミネラル含有量の実測調査について

標記の件についてご返事をいただき、ありがとうございました。

「パンの提供を通じて、国民の食生活改善と文化の向上に寄与するよう努力・推進してまいります」と書かれたので、さすが主食の位置におられる業界だけのことはあると思いました。

私どもは2010年から、市販食品の主要ミネラルを実測しています。

その結果、大半の食品は、カルシウム、マグネシウム、鉄、亜鉛が、食品成分表に掲載されているミネラル値より少なく、現代人の食事は、主要4ミネラルが推定平均必要量を大きく下回っていることが判明しています。

栄養学の研究者は市販食品を実測しておらず、「健康日本21」も「食事バランスガイド」も机上の空論で提案しているので、提案どおりに、さまざまな市販総菜をバランスよく組み合わせると、大半のケースで推定平均必要量を大きく下回るようになります。

推定平均必要量は50%の人に健康障害のリスクが生じる食事摂取基準なので、日常的にパンと市販総菜を食べている国民のほとんどに、健康障害が生じていることになります。

そこで、提案を申し上げます。

食品成分表に載っている「パン類」「菓子パン類」「ケーキ・ペストリー類」と同様の商品を販売している会社は、食事摂取基準のあるミネラルについて実測をしていただけないでしょうか。

そのミネラル値が、食品成分表より大幅に少ないパンは、商品を見直すか、あるいは文部科学省に資料を提出して、食品成分表の数値を正確に改正してもらうように措置を取っていただけないでしょうか。

この2点について、ご検討をお願い申し上げます。